

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月18日

【評価実施概要】

事業所番号	1275200051
法人名	有限会社エスディケア
事業所名	グループホームふれ愛
所在地	〒289-0517 千葉県旭市萬力318番地 (電話) 0479-68-2154

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4 千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成20年3月12日	評価確定日	4月28日

【情報提供票より】(20年2月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	28 人	常勤専任10名 兼務4名 非常勤14名 常勤換算10名	

(2) 建物概要

建物構造	木造
	2階建ての 1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	4万3千~5万円	その他	食費36,000,水道光熱費25,000,おむつ代,理美容代,通院等付添1,500/時	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無		
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	150×2回 円
	または1日当たり 1,200 円			

(4) 利用者の概要(2月28日現在)

利用者人数	17 名	男性	7 名	女性	10 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.2 歳	最低	55 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ひがた内科医院 飯倉医院 宮負歯科医院
---------	---------------------

特定非営利活動法人コミュニティケア研究所

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成16年開設。バリアフリーでオープンキッチンのあるリビングダイニングや畳の居間もあり、家庭的で新しい設備を完備した2ユニットのグループホームである。緑豊かな干潟八万石の田園風景が一望できる恵まれた環境の中で、「ゆっくり、一緒に楽しく」をモットーに職員と入居者が共に生活を楽しんでいる。運営者、管理者と職員のコミュニケーションも良く、入居者本意のケアを実践しようという熱意が職員の態度、ホームの装飾、庭の活用、食事などを通じ、全体の雰囲気として感じられた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回評価の改善課題は、継続的な研修の受講、人材育成などである。職員に対して県からの研修情報の告知、外部研修の受講機会の提供、内部研修として月1回の会議の活用、働きながらのトレーニングなどを実施した。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者が職員に意見を聞きながら自己評価票を作成した。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議を活かして地域貢献やホームの現状を知っていただくような取り組みと、外部からの視点や意見を取り入れてケアの質の向上、地域交流の活発化などを目指している。しかし参加者の都合等で会議の開催頻度が少ない現状である。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族などからの意見や相談が言いやすいホームの雰囲気づくりを職員は心がけている。「ゆっくり、一緒に楽しく」をモットーに家族にも接している。意見や相談があれば直ぐに職員で共有しホームの運営に反映させている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>買い物や散歩時には近隣住民に挨拶を心がけ、スーパーなどでも顔なじみが増えてきている。災害時連携も含め、地域と良好な関係を構築しようと、運営推進会議などを通じて話し合っている。</p>

2. 評価結果 ( 詳細 )

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自の理念や運営方針を分かりやすく職員に伝えることで、それが実際のケアに活かされ、地域の中で理念が自然に浸透していくように努めている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	設立当初に職員と共に創り上げた理念を全職員で共有し、入居者本意の家庭的な雰囲気を大切にケアの実践を日々取り組んでいる。		
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として交流を大切にし、スーパーなどでは顔見知りも増えてきている。小学生の慰問やボランティアなどがホームに来ていただくだけでなく、積極的に地域行事(祭りなど)に参加するようにしていきたいと考えている。		自治会や地域行事に参加し、地域との交流を深めることで、地域との関係を良好に保つことができる。防災面や入居者の安全面を考慮した取り組みとして計画的に実施されることを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は全職員に外部評価の意義を説明し、職員と共に自己評価に取り組んでいるが、外部評価に対する意識の差が見受けられる。		ホームの現状把握のよい機会と捉え、必要な取り組みを具体的に職員で共有し、計画的に実施することが期待される。
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を活かして地域貢献やホームの現状を知っていただくような取り組みを図りたいと考えている。また外部からの視点や意見を取り入れてケアの質の向上や地域交流の活発化を目指している。		運営推進会議の開催頻度とメンバー構成の枠を広げるようにすると、ホームが目指している運営推進会議の効果が高まると思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者とは常に連絡を取り、連携を深め情報を収集し、サービスの質の向上に役立てている。近くに来た時には立ち寄っていただいたりしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回「ふれ愛だより」を発行するとともに、暮らしぶりや様子、金銭管理状況など入居者個々の様子についても報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は家族が意見や相談を言いやすい雰囲気づくりを心がけている。「ゆっくり、一緒に楽しく」のモットーは家族にも向けられている。意見や相談があったら直ぐに職員で共有し、対応する。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職は最小限で抑えるように努力している。もしそのようなことがある場合は、時間をかけて入居者に説明し、ダメージが無いように馴染みの職員やホーム長、管理者が対応するなど配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量に応じて外部研修の機会を設けたり、毎月の会議を利用した内部研修および働きながらのトレーニングを大切にしている。		職員個別の育成計画を立てると、さらに効果的な内・外研修、働きながらのトレーニングが設定できると思われる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームと、年3回程度、職員の交流、意見交換、互いのホーム体験などを行っている。今後は入居者を含めた交流も行なっていきたいと考えている。グループホーム連絡会には必ず参加し、ネットワークづくりや情報交換を行いケアの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>家族や入居者本人の気持ちの確認などを行いながら、ホームの雰囲気も感じてもらえるようにしている。本人が安心してサービスが利用できるような関係づくりを重要視している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は日々の生活において「ゆっくり、一緒に楽しく」入居者と共に過ごし、多くのことを学んでいる。年月を重ねることで支えあう関係が構築されてきている。</p>		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常のコミュニケーションを通じ、入居者一人ひとりの思いや暮らし方の希望に添えるよう努めている。特に意思表示が困難な方へは顔の表情や動作等を注意深く観察し、本人本位の意向を検討している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者本人と家族の意見および、日々の情報を職員会議で共有したうえで、介護計画を作成している。センター方式アセスメントシートを利用しているが未記入の欄が散見された。また本人のニーズが抽象的な表現でかかれ、具体性に欠けている。</p>		<p>センター方式アセスメントシートの理解および記入の仕方を職員に周知徹底し、情報の充実が求められる。また入居者のニーズは、本人の気持ちを読み取るよう努め、具体的かつ明確に表現することが望まれる。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月の職員会議で介護計画の見直しを行っている。サービス担当者会議では家族も参加した例があり、現状に即した計画となっている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者本人の状況や家族の要望に応じ、通院や一時帰宅などの移動介助を随時行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者本人や家族の希望があれば、ホームの提携医のほかに、これまでのかかりつけ医への受診も可能である。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームとしての重度化や終末期に向けた方針が不明確である。		ホームとしての方針を運営者、管理者および職員、そして提携医療機関の医師等と協議した上で明文化し、家族への説明と関係者間での方針の共有を図ることが大切である。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、入居者一人ひとりの尊厳を重んじ、人生の大先輩として敬意を払い、言葉かけや対応を行っている。帳票類等は年度毎に整理され、キャビネットや倉庫等に保管されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの生活のペースを大切に、本人の希望に応じた過ごし方を支援している。調査当日は体操する人や、日向ぼっこをする人など、個々の過ごし方を支援していた。買物や通院も個別対応が図られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	オープンキッチンで食事を準備する音や匂いが食欲を誘う。入居者の状態に応じて野菜の皮むきや食器の準備・片付けなどを行っている。食卓は職員も共にし、コミュニケーションの場となっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員の業務の都合上、主に午後を入浴時間としているが、入居者の希望にはできる限り対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	炊事洗濯や力仕事など、入居者一人ひとりの持てる力を活かした役割を担ってもらっている。趣味を持つ入居者には、できる限り長く継続して行えるよう支援を行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気がよければ、散歩や近くのスーパーマーケットへ買い物に出かけたりしている。また外出行事を多く取り入れ、戸外へ出かける機会を多くしている。行事毎に写真を撮り、入居者一人ひとりのアルバムを作成し、本人や家族にも好評を博している。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間の防犯目的以外の施錠は行っていない。ホーム外に出ていってしまう入居者がいれば、職員が後を随行し、本人が納得した上でホームに戻るよう促している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回自主訓練と消防署の協力の下、避難や通報の訓練を行っている。また、職員は積極的に救急救命講習を受講するよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりのおおよその食事、水分の摂取量を個別に記録し、一日の必要量が確実に確保できるよう支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が一番多く時間を過ごす食堂兼居間は、採光も良く暖かい雰囲気です居心地がとてもよい。訪問時は雑飾りが飾られ、季節感が感じられる工夫がされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れ親しんだ家具や備品が持ち込まれ、それぞれの居室が入居者のオリジナリティに溢れ居心地のよい空間形成がされている。		